

3 学期始業式式辞

皆さん、あけましておめでとうございます。2 学期の終業式で、「全員健康な姿で登校してくれること」をお願いしていましたが、全員健康で出席しているでしょうか。

相変わらず、コロナ禍は年末年始に関係なく、前にも増して感染拡大を続けています。関東では緊急事態宣言が発出され、医療崩壊を食い止めるための瀬戸際の生活が余儀なくされており、関西においても同じ状況に近づきつつあります。年齢が若ければ、コロナウイルスでの症状は軽いことが多いようですが、コロナウイルスに感染することで病院が満杯になり、他の重篤な病気等で診てもらえなくなります。3 学期は登校日数が少ないですが、2 学期以上に感染防止に本気で努めてください。

さて、年末年始は外出自粛の呼びかけもあり、自宅でテレビを見ることが多くなりました。印象に残ったことを話したいと思います。「MI グランプリ」は毎年見ていましたが、今年は、その優勝の過程を追跡した番組を見て考えさせられました。優勝したコンビは、3 年前に出場した際に、審査員の講評で可哀想なくらい厳しく扱き下ろされ、ステージ上で今までやってきたことを全否定された、屈辱の経験を持っていました。普通なら、自信は打砕かれ不貞腐ってしまうことも理解できるところです。教員が今生徒に対して同じような叱り方をすれば、問題にされそうな行為です。

しかし、このコンビは、その後このスタイルでやっていっていいのか悩みながら、ただ自分が面白いと信じることをやり続けて頂点に立つことができま

した。こう言ってしまうえば、簡単ですが、「こうやれば、成功する」という明確な答えがあるわけでない演芸の世界を、人生を賭けてやり続けたことに感動しました。このコンビの漫才は、審査員の評価も割れ、SNSでも「漫才ではない」と議論になるくらい典型的な漫才の形とは違って新しいものでした。

プロ野球で楽天の監督を務め、アメリカで活躍する田中将大投手を育てた野村克也さんが著書の中で「努力が続かないのは、どこかで努力の効果がすぐ現れると期待しているからである。努力に即効性はないのだ。」と書かれていました。普通、目標があっても努力をし続けることが難しい中、明確な答えがないゴールに向けて3年間逃げずに努力し続けたこのコンビについて、「強い」と感じました。皆さんも努力をし続ければ、何らかの結果がでます。よい結果が出ることを期待して、3学期始業式の式辞とします。